

EAMSC 2023 NEPAL

वैश्विक गुणवत्ता



27-30 TH
JANUARY
2023

報告書

- EAMSC 2023 in Kathmandu, Nepal -

目次

- (1) 会議概要
- (2) 日本人参加者
- (3) スケジュール
- (4) プログラム別報告
- (5) その他
- (6) 感想

(1) 会議概要

[会議名称]

EAST ASIAN MEDICAL STUDENTS' CONFERENCE 2023 NEPAL

[開催地]

Kathmandu (Nepal)

[開催期間]

2023年1月27日～2023年1月31日

[テーマ]

“Mountain and Wilderness Medicine”

(2) 日本人参加者

- Regional Chairperson

櫛部 美夕香 デブレツェン大学医学部医学科 5 年

- Academic delegate

櫛部 美夕香 デブレツェン大学医学部医学科 5 年

嶋 莉子 デブレツェン大学医学部医学科 4 年

水野 あゆ菜 デブレツェン大学医学部医学科 5 年

- General delegate

森 そのは デブレツェン大学医学部医学科 4 年

(3) スケジュール

Time/Date	27th January	28th January	29th January	30th January	31st January
06:00-07:00	Transfer from Airport to Hotel	Morning call			Closing Ceremony and Award Distribution
07:00-08:00		Breakfast			
08:00-09:00		Transfer to the venue	Transfer to the venue	Transfer to the venue	
09:00-10:00		International and National sessions	Community Service Program (Adventure for a cause)	Cultural Booth and Photography Competition	
10:00-11:00		Scientific Paper Competition			
11:00-12:00					
12:00-13:00		Lunch	Lunch	Lunch	
13:00-14:00	Registration	Scientific Poster Competition	Return Hike	Cultural Night and Dinner	Transfer from Hotel to Airport
14:00-15:00	Ice Breaking				
15:00-16:00	Opening Ceremony and Welcome Party	Simulation Workshop	City Visit		
16:00-17:00					
17:00-18:00		Dinner	Dinner		
18:00-19:00					
19:00-20:00	Chapters Meeting				
20:00-21:00					
21:00-22:00					
22:00-23:00					

(4) プログラム別報告

Day 1

Transfer from Airport to Hotel

今回の国際会議は日本の大学在学中の医学生は大学から許可が下りず、参加できなかったため、今回はハンガリー国立デブレツェン大学の医学生4人での参加でした。

2023年1月26日、ハンガリーのブダペストを出発し、ドバイに5時間滞在し、飛行機を乗り換え、朝7:30にネパールの首都であり、標高1400mのカトマンズに到着しました。到着までの飛行機からはエベレストが見え、ちょっとした大騒ぎでした。

到着すると、1人のネパールの医学生が日本とネパールの旗でデザインされているポスターを持ちながら、出迎えてくれました。AMSA Nepalは学期中だったそうですが、あの大規模な国際会議の運営を13名で回していました。そのため、出迎えも学生1人でしていました。1人で空港から出たところに朝から何時間も立ち、100人以上の学生をバンに案内するのは心身ともに大変だったと思います。凄いです。一番苦労したことはスポンサー探しだったそうです。AMBOSSや航空会社など数々の会社がスポンサーとして支援していただき、大変感謝です。

他の国の子たちと一緒にバンで会場に送られるということで、その学生は次に到着する子たちを迎えに行くため、空港に戻っていき、私たちは他の国の子たちとバンの中で待機していました。すると、運転手を装った人たちがやってきて、私たちの荷物をバンの上に乗せ始めました。(こちらがその写真→)



結果、20USD払うよう言ってきたようで、前に座っていた女の子が誰かUSDもってない?と聞き、AMSA JAPANのメンバーの一人が5USDもっていたので何も事情などを知らず、渡してしまいました。違和感をもった私と隣に座っていた女の子はバンを降りて、今からこの会議の主催者を呼んでくるからそこで待っていて欲しいと言ったところ、その必要はないと言われましたが、押し切って呼びにいったところ、その人たちは急いで逃げていきました。私たちは5USDで済みましたが、他のグループはもっと大金を取られたそうです。到着早々、良い経験となりました。

5つ星ホテルに到着し、盛大に迎えてくださいました。結婚式も同時に行われており、伝統的な豪華な衣装や料理、装飾が施されており、とても驚きました。

4.5GBのSIMカードを受け取り、WIFIをつなげて、国際会議の登録を済ませた後、AMSAジャケット、EAMSCリュックなど様々なギフトをいただきました。

Online executive board meetingですでに挨拶していた子たちとも会え、嬉しかったです。



左の男性が AMSA Nepal の代表 (Regional Chairperson) であり、今回の Head of Conference である Aramva です。8歳まで日本に住んでいたそうで日本にとっても親しみを持ってきていました。

その後、自分の部屋へ移動しました。全員ルームメイトがいて、2人で1つの部屋を使います。必ず違う国でペアになるようになっていて、私は18歳のインドネシアの女の子でした。とて

も真面目で優しい子で私に Melati という名前を付けてくれました。インドネシア語でジャスミンという意味だそうです。私も彼女に咲空(Sakura)という名前を付けました。Flower と sky が好きだということでこの名前にしました。



その後ホテルでネパール料理を堪能しました。



Ice Breaking

参加者の緊張をほぐすために、最初に自己紹介やゲームなどを行います。これが Ice breaking です。ネパールの学生を中心にお互いの言語なども共有し、沢山の学生と仲良くなることができました。

Opening Ceremony and Welcome Party

Opening ceremony では AMSA の本部、AMSA International の代表 Athif と Conference の代表 AMSA Nepal Aramva をはじめとした代表の方々、また、ネパールの先生方からお話をいただきました。どのように話せば聴衆の心に響くのかを念頭に置いており、口演の仕方にとっても感銘を受けたのを今でも覚えています。



今までの先輩方の AMSA の写真がスクリーンに流れてきてそれに合わせて参加者全員で AMSA の公式の歌を歌いました。感動的な歌と写真でした。

その後、ネパールの方々による、伝統衣装をまとったネパール独特の神秘的で新鮮なダンスが披露されました。



その後の welcome party ではビュッフェ形式でネパール料理を含めたアジア料理がずらりと並んでいて、好きなものをお皿に取り分け、他の国の子たちと一緒に話ししながら食べました。この後、毎日3食同じようにビュッフェスタイルです。

Chapters Meeting

夜 10 時～12 時、各国の regional chairperson が集められ、会議が開かれ、1 日を終わっての感想や反省点、改善点を話し合いました。1 人ずつ話していくのですが、まず、主催国ネパールより、「日本は日本人でかたまってしまっている、もっと離れて他の国の人と交流してほしい。加えて、韓国と台湾もその傾向がある。」と言われてしまいました。来て時間もほとんど経っていないし、思い当たるものがなかったので、なぜこのように言われてしまったのか考えました。よく言われている、日本人は消極的で日本人同士でつるもうとするという考えが元々あったのは理由の 1 つだと思いますが、1 つは日本人の参加者数が圧倒的に他の国に比べて少ないことが理由なのではないかと考えます。会議でも私の名前だけ覚えられており、道端でも初対面の方にも「みゆかだよね、よろしくね。」とよく挨拶されました。日本人は少し目立つようです。また、AMSA International の head によると日本が国際会議に参加するのは数年ぶりのようです。AMSA JAPAN は現在、メンバーは 50～55 人ほど、AMSA Indonesia は入団するのに選抜試験があってそれを潜り抜けて選ばれた 3000 人以上のメンバーで成り立っているそうです。香港は医療系の大学が 2 つしかなく、AMSA に入れるのは pre-med の 1、2 年生のみであるにも関わらず、人数が日本と同じ 54 人くらいで、今回の

EAMSCは18人参加していました。活動内容などを見ても、日本は何歩も遅れてしまっているのが現状です。他の国からも日本はモチベーションが低いととらえられているような気がします。日本ももっと人数を増やして1人1人がアクティブに活動することで他の国に追いつけるように頑張りたいなと思いました。他の国の学生が高いモチベーションをもって、熱心に活動していることを自分の目で確認するために、より多くの人に国際会議に参加して頂きたいと思いました。



Day 2

Morning Call

私はルームメイトと共に朝 5 時に起床しました。朝 6 時にグループ班長が部屋のドアをノックしにやってきます。

Breakfast 6:30



Scientific Paper Competition

Abstract による選考でファイナリストに残った 8 つのチームが先生方の前でプレゼンテーションをすることができます。今回のテーマは山岳医療で、日本は薬による高山病の予防についてのプレゼンテーションをしました。8 分のプレゼンテーションと 4 分の質疑応答で構成されています。危険因子、副作用、高山病の発症率、その他の効能などを調べ、その結果と考察を提示し、人それぞれ適切な予防は違うこと、Combination of Western medicine and Eastern medicine の案を提示しました。

Is Acetazolamide Still the Best Option? -A Retrospective Review to Identify the Optimal Approach for Preventing Acute Mountain Sickness-

AMSA Japan

Miyuka Kushibe, Hibiki Yamazaki,
Riko Shima, Ayuna Mizuno, Keigo Sano,
Kotomi Okita, Yudai Kaneda

**Is Acetazolamide Still the Best Option?
- A Retrospective Review
to Identify the Optimal Approach
for Preventing Acute Mountain Sickness -**

AMSA Japan
Miyuka Kushibe*, Hibiki Yamazaki,
Riko Shima, Ayuna Mizuno, Keigo Sano,
Kotomi Okita, Yudai Kaneda
Faculty of Medicine, University of Debrecen*
rcjapan@amsa-international.org*

AMSA J
EAMSC 2023 Nepal academic competition



優勝はタイの Ginkgo Biloba の extract に関する論文でした。まだ1年生です。彼らは高校生の時から様々な研究を行ってきており、昔から新規性がないじゃないかこれじゃと言われながら経験を積み重ねてきたそうです。勉強量とかを聞いてもお、、、っという感じでした。凄いです、本当に。

今回の Scientific paper competition で先生方が何を求めているのかなど、多くのことを収穫したので、これらを参考に夏の AMSC(Asian Medical Students' Conference)に向けて今、次の準備を進めております。次のテーマは Geriatrics : Care for The Future です。日本の人口の 29%が高齢者である今、老年医学はこれから先、大切になってくると思います。少しでも新規性の高い分析をできたらいいなと思っております。

(こちらが優勝した国の Abstract です↓)

Ginkgo Biloba Flavonoid Extracts as a Carbonic Anhydrase II Inhibitors for Acute Mountain Sickness Prevention: A Molecular Docking Study

Kasidit Wiboonkiat(1), Chotiphat Pornthanamongkol(1), Setthawut Intarapradit(1), Chinnavuth Vatanashevanopakorn(2), and Yodying Dangprapai(3)

1- Medical Student, Faculty of Medicine Siriraj Hospital, Mahidol University

2- Assistant Professor, Department of Biochemistry & Siriraj Center for Regenerative Medicine (SiCRM), Faculty of Medicine Siriraj Hospital, Mahidol University

3- Assistant Professor, Department of Physiology, Faculty of Medicine Siriraj Hospital, Mahidol University

Introduction

Based on research regarding phytomedicine as a prophylactic agent for acute mountain sickness (AMS), Ginkgo biloba extracts are among promising candidates. However, a mechanism of action of these extracts remains unknown. Previous studies have shown that some flavonoids, a phenolic metabolite found in various plants, have capability to inhibit carbonic anhydrase II (CAII), a zinc metalloenzyme that regulates acid-base homeostasis. This inhibition could potentially ameliorate an increase in systolic pressure and respiratory alkalosis found in AMS.

Objective

We aim to investigate effectiveness of flavonoid extracts from Ginkgo biloba as CAII inhibitor for opening up more possibilities of new AMS drug development based on natural extracts.

Method

Molecular docking technique was applied to screen candidate substances in order to shorten a period of the pre-clinical phase of drug development. Applying AutoDockVina docking and LigPlot+ interaction plotting, the results predict a binding affinity and interaction diagram of the coherence between the selected ligands and the CAII zinc binding site.

Result

All flavonoid extracts demonstrated higher binding affinity score compared to CAII original substrates: carbon dioxide and bicarbonate. Moreover, quercetin, the highest affinity flavonoid, has zinc interaction and H-bond on the enzyme active site, similar to natural ligands with the greater cohesion stability from higher hydrophobic contact.

Conclusion

From the affinity results, G Biloba flavonoids competitively inhibit CAII and consequently mitigate the AMS. They are, therefore, highly likely to be tested as substitute drugs for acetazolamide, which is currently commercially used, in order to reduce the potential side effects of synthetic drug and increase bioavailability. Since this study is a pre-screening in silico, further studies including molecular dynamic, preclinical and clinical testing are essential for further development of a drug for AMS.

Keywords:

Ginkgo biloba; flavonoid; carbonic anhydrase isozyme II (CAII) inhibitor; acute mountain sickness (AMS); acetazolamide (AZM)

Lunch

Scientific Poster Competition

先生方の前に順番でポスターを提示し、8分の発表をします。その後先生方から4分の質疑応答があります。日本は今回はポスターは提出できなかったのですが、AMSCでは出したいと考えております。



Simulation Workshop

今回のテーマは emergency medicine です。ネパールの先生方がいらして、止血、骨折、BLS、ALS、(心肺蘇生、心電図、AED)、窒息時の対処法、Case report の読解などを教えてくださいました。



Dinner

Chapters Meeting

Day 3

Moring call

Breakfast

Community Service Program (Adventure for a cause)

10 グループに事前に分けられており、グループごとに動きます。極力同じ国の人分散されるように組まれていました。



皆で初日に配布されたおそろいの AMSA パーカーを着て出発です。ゴミ拾いをしながら街中をこえて瞑想をする場所までハイキングをしました。

様々な内容の話をしながら歩きましたが、その一つに各国の大学の教育システムについて話しました。他の国では話し言葉は

母国語ですが、授業のスライドや使用している教科書は全て英語のようです。私は5年生であるのに対して、周りは1,2年生が多数を占めていましたが、5年生の内容にも一生懸命耳を傾け、みゆかの大学は Oral exam が多いみたいだけど、僕らももう少しでそういう試験が増えるからどういう感じか教えてほしいという言葉から始まり、ENTの試験で inner ear に問題があるからそういう時は Cochlear implant って答えるんだけどなどと話していると cochlear implant って何？とても興味深いもっと教えてほしい、ちなみに僕はこの前この日本の論文を読んだんだけどとても興味深くてモチベーションがぐんっと上がった、といった、やる気と活力に満ち溢れていました。私はというと、頭の中で、これ終わって帰国したら試験か、勉強にはもう疲れたな、やりたくないな、と思いながら話していたので少々ショックを受けました。



瞑想の前に日本でいう精進料理のような軽食をいただきました。その中にポップコーンもあるのは驚きでした。

Lunch

Return Hike

午前中のアクティビティが終わり、皆でホテルに歩いて帰りました。

外国語用の塾を時々見かけましたが、いつも STUDY & WORK IN JAPAN と大きく書かれていて、その下に小さく US, UK, CHINA と書かれており、日本語が一番メジャーのようでした。聞いたところ、日本が一番滞在許可をおろしてくれるため、日本語を勉強したい人が多いそうです。これは香港の Regional Chairperson(RC) が日本語が英語よりメジャーであることに驚き、笑いながら写真を撮っている写真です。



City Visit

グループでドラえもんの歌を歌いながらバスを待ち、バスに乗って観光地へ向かいました。行きも帰りも隣はタイの RC の子で、タイでは RC になるのにモチベーションレターや口演に加え、過去 5 年の RC の方々にそれぞれアドバイスを聞きにいかないといけないそうです。また、AMSA の構成や活動、paper, poster and photography competition に参加するための国内での予選選考などについて教えてくれました。タイでの競争率は凄まじいです、

観光地はグループによって異なり、ネパールの学生さんがガイドをしてくださいました。



Durbar square と呼ばれる王宮広場を中心に各グループ街中を散策しました。モモというシュウマイと水餃子の間のようなネパールの伝統料理をいただき、私はバッファローモモを選びました。広場までの道のりにはたくさんのお店立ち並び、カシミヤのストールや伝統衣装、スパイスやスナックの袋がずらりと吊るされて売られていました。グループごとにネパールの学生が先導してガイドしてくださり、みんな思い思いに写真を撮ったり交流したりと楽しい時間を過ごしました。ヒマラヤの塩一パックが40円程度で売られていたり、道端のお店も値切るのが普通のように少し挑戦してみたり、ネパールを感じるショッピングも楽しめました。



Dinner

Chapters Meeting

Day 4

Morning call

Breakfast

Cultural Booth and Photography Competition



Cultural booth では、各々の国が自国の伝統衣装をまといながら、お菓子や伝統品をもちより、お互いの文化の理解を深め合いました。日本からは、駄菓子、輪投げ、書道、折り紙を提供しました。書道では参加者の名前を日本語で書き、折り紙ではナルトで

有名な手裏剣をつくりました。基本は先程述べましたグループごとで行動をしているのでこの交流は他のグループの子たちと触れ合う貴重な時間となりました。同時に Photography competition も行われていましたが、日本は人数が少なく、ブースを回すので精一杯だったので参加できませんでした。



Lunch

Cultural Night and Dinner

午前中の Cultural booth が終わると Cultural Night というイベントがやってきます。それぞれの伝統的なダンスや自国を代表する曲などとともにパフォーマンスをしました。日本はドラえもん（子供の頃の懐かしい曲）、真夜中のドア～Stay with me（1980年代の代表曲）、紅蓮華（鬼滅の刃）、PPAP（ピコ太郎）、千本桜（ボカロ）、ふたたび（千と千尋の神隠し）、前前前世の動画と曲を編集し、それに合わせて自作の振り付けで踊りました。お互いの文化を理解し、尊重し合えた有意義な時間でした。



Chapters Meeting

Day 5

Morning call

Breakfast

Closing Ceremony and Award Distribution

飛行機の関係で日本は参加できませんでしたが、日本には certificate of participants が全員、academic competition 出場者には certificate of presentation が渡されました。



Lunch

Transfer from Hotel to Airport

(5) その他

- EAMSC 国別参加者人数

今回の国際会議は、コロナウイルス対策による PCR 検査や海外渡航制限、多くの大学が試験期間であったことなどの理由で不参加の国も多く、参加者人数が例年(300~400人)よりも少なかったです。私たちも試験期間中で、試験を終えたら休む間もなく準備をして、出発、そして帰国後もすぐに勉強を開始し、残りの試験を受けていました。国際会議中に試験を受けている学生もかなり見かけました。

Organizing committee members (Nepal) – 39

AMSA Nepal – 4

AMSA Hong Kong – 18

AMSA India – 3

AMSA Indonesia – 38

AMSA Japan – 4

AMSA Korea – 9

AMSA Malaysia – 3

AMSA Philippines – 7

AMSA Singapore – 6

AMSA Taiwan – 22

AMSA Thailand – 24

計 177

- 本来、病院見学 (Hospital Visit) がある予定でしたが、コロナウイルス対策の影響で今回はなくなってしまいました。
- 希望者は国際会議終了後、Post conference tour というものに参加できました。私たちは直近で試験があったので参加できませんでしたが、パンフレットを載せておきます。↓



Situated in Central Nepal, this city of lakes allures the eyes always wandering in search of nature's therapy. Pokhara valley is the gateway to the Annapurna range with stunning views where a trekker finds his utopian paradise.

With the three major Fewa, Rupa and Begnas lakes on the lap of Himalayas, Pokhara possesses a cluster of 9 lakes, caves, sunrise and sunset viewpoint.

Places to see in Pokhara:

- Phewa lake
- Seti river
- Davis Fall and Gupteshwar cave
- Mahendra cave
- World Peace Pagoda
- Bindyabasini temple
- Sarangkot

Things to do:

- Mountain viewing
- Boating and kayaking
- Bungee jumping
- Mountain Biking
- Hiking
- Paragliding
- Ziplining



PCT-2 CHITWAN

2 NIGHTS

MARUNI SANCTUARY LODGE
FULL BOARD BASIS
TWIN SHARE ROOMS

SINGLE ROOM SUPPLEMENT:
110USD/PERSON

JUNGLE EXCURSIONS
INCLUDING JEEP SAFARI,
CANOEING AND NATURE WALK

KATHMANDU-CHITWAN-
KATHMANDU BY CAR

FLIGHT OPTION AVAILABLE ON
REQUEST

USD 440

Chitwan is one of the most gratifying tourist destinations of Nepal. The name 'Chitwan' translates to "the heart of the jungle". Located in the southwest corner of Bagmati Province, Chitwan lies between foothills of the Himalaya, the Mahabharata and Siwalik ranges and serves us with serenity and delight. Chitwan National Park, the center of attraction is an exciting jungle experience with-jungle safaris, bird watching, canoe rides, elephant and gharial breeding centers. Along with nature's hospitality, we can observe local indigenous life by visiting Tharu villages.

Places to see in Chitwan

- Chitwan National Park
- Sauraha
- Bharatpur
- Devghat
- Meghali
- Chepang hill trail

Things to do

- Experience wildlife
- Bird watching
- Local cuisine
- Tharu culture



PCT-3 POKHARA & CHITWAN

3 NIGHTS

USD 430



1 night twin share room in Waterfront Hotel Pokhara with Bed and Breakfast
Half day tour of Pokhara

2 nights twin share room in Maruni Sanctuary Lodge Chitwan on Full Board basis

Single Room Supplement: 200USD/person

Jungle excursions in Chitwan

Kathmandu-Pokhara-Chitwan-Kathmandu by car



PCT-4 LUMBINI

1 NIGHT

USD 405

- BUDDHA MAYA GARDEN HOTEL
- BED AND BREAKFAST
- TWIN SHARE ROOM
- SINGLE ROOM SUPPLEMENT: 90USD/PERSON
- KATHMANDU-BHAIRAHAWA-KATHMANDU ON AIR
- HALF DAY SIGHTSEEING OF LUMBINI
- AIRPORT TRANSFERS IN LUMBINI AND DEPARTURE TRANSFERS IN KATHMANDU FOR BHAIRAHAWA ONLY (AIRFARES ARE SUBJECT TO CHANGE AND WILL BE REFLECTED IN THE PRICE)



Lumbini, a Buddhist pilgrimage site in the Rupandehi district is one of the holiest places where spiritual minds meet and experience inner peace. The birthplace of Lord Gautam Buddha, Lumbini, is home to world renowned monasteries and is listed as a UNESCO World Heritage Site. The tranquility and greenish surroundings attract many tourists from all over the world.

Inside Lumbini one can observe

- Ashoka pillar
- Maya Devi temple
- Puskarni Pond
- Sacred garden
- Gotihawa

You can learn and practice meditation, familiarize yourself with Buddhism in the oldest library in Lumbini and reflect on world peace watching the eternal peace flame that has been burning for years.



EXTRA NIGHTS IN *KATHMANDU* KATHMANDU GUEST HOUSE (WITH BREAKFAST)

STANDARD SINGLE/DOUBLE:
USD 55/65 PER NIGHT

DELUXE SINGLE/DOUBLE:
USD 80/85 PER NIGHT



Kathmandu, the capital of Nepal, is an entrancing valley with her perfectly blended climate that embraces enticing nature, exquisite architectures, distinctive cultures and dynamic individuals from all over Nepal in her warm arms. She is full of historic sites, ancient temples, shrines, and fascinating villages. Mingle with locals and animals amid Durbar Square's monuments, or join mountain trekkers in the bustling Thamel market.

Places to visit in Kathmandu

- Patan Durbar Square
- Bhaktapur Durbar Square
- Shivapuri National Park
- Pashupatinath Temple
- Sundarimal
- Boudhanath Stupa
- Chandragiri Hills
- Thamel
- Garden Of Dreams
- Namobuddha Stupa

(6) 感想

櫛部 美夕香 デブレツェン大学医学部 5 年

上述したことに加え、他の参加者が私の言いたかったことをそのまま書いてくれているので（次のページから）、私からは他の視点から感想を書かせていただきたいと思っています。

私は 5 年間、進級率が低いと言われているハンガリーで周りの子が勤勉に勉強に取り組んでいる姿や試験によって多くの生徒がメンタルがやられてしまい、大学全体の雰囲気暗くなる様子も見てきましたが、それとはまた違った現実を自分の目で確認することができました。日本で外科実習をさせていただいたときもとても忙しく、難しく、自分が臨床にとっても弱いことが分かり、日本の学生に少しでも追いつかないと、とショックを受けたことも覚えています。このように私は色々なことに参加することで今まで気づかなかったことに気がついたり、視野を広げることができると考えているので、是非、今年の夏の AMSC (Asian Medical Students' Conference) により多くの方に参加していただきと思っています。

また、日本人の傾向の 1 つとして、物事に対して待ちの姿勢があると思います。リーダーに仕事を振られるまで待つ傾向にあり、自ら調べたり、聞きに行ったり、何かを始めてみたりする人は少ない気がします。日本ではあまり積極的にいかないことがスタンダードではありますが、これは海外では評価されません。むしろネガティブな印象です。医療においてもグローバル化が進んでいる今、何事にも積極的に全力で取り組む人が日本の医療の発展には必要なのではないかと感じました。グローバル化に自分が将来ついていけるのかも心配です。AMSA で活動する私たちではなく、私たちで作る AMSA をこれから目指していけるといいなと思いました。

私にとって今回の国際会議の唯一の問題点は睡眠時間の不足です。とても濃厚な時間でしたが、日本は人数が少ない分、一人当たりの負担も大きく、加えて RC の MTG や仕事もあったので睡眠をとる時間がなく、毎日寝不足で、楽しめたはずのものが楽しめなかったこともしばしばありました。ですが、逆を言うと起きていた時間が長かったのもとても濃厚な時間だったと思います。そんな眠そうな私にどの学生も皆、一生

懸命私の目を見ながら耳を傾け、頷いて話を聞いてくれて、何事にも全力な、とても優しい仲間にも恵まれました。

真面目な話ばかりしてしまいましたが、最後に、EAMSC とても楽しかったです！
AMSA JAPAN のメンバー含めた AMSA の皆さんとネパールに行かせてくれた両親には感謝でいっぱいです。ありがとうございました！！

嶋 莉子 デブレツェン大学医学部 4 年

EAMSC への参加もネパールという国に行くのも初めてで未知の体験でした。ネパールはこのような機会がなければ行くことがなかったであろう異国で、空港から滞在先までの道のりからすでに胸が高鳴っていました。フレンドリーで面倒身のいいネパールの方々のホスピタリティーには目を見張るものがあり、最大のおもてなしに終始感謝の気持ちでいっぱいでした。インドネシアのような大人数で参加しているチームの熱気と勢いも、日本やマレーシアのように参加者の少ない国への思いやりも感じる事ができ、そのすべてがああ活気のあるアットホームな空間を作り出していたように思えます。印象に残っているのは、どの国もお互いの文化を尊敬尊重し合いながら楽しんでいたことです。毎日のビュッフェスタイルの食事やハイキングと瞑想、city visit では短い滞在ながらもたくさんの新しい出会いと共に、ネパール現地でしか味わえない魅力を堪能し、カルチャーブース・ナイトでは私たちの文化を好いてくれる人たちがこんなにもいるんだと感動しました。過密でしたが、とても濃い5日間でした。毎日のイベントの中でアジアのそれぞれの国に対して新しい発見や良さを知り世界が広がると同時に、日本についても様々な視点で見つめなおせるという国際交流の醍醐味を味わってきました。またぜひ参加したいです。

水野あゆ菜 デブレツェン大学医学部 5 年

テスト期間の中慌ただしい時期に訪れた EAMSC 2023 ネパールでしたが、日頃の不安や焦りなど悩みを忘れられるくらい、人の暖かさ、瞑想体験、また心地のいい自然によって心も身体も癒されたセラピーのような5日間でした。

比較的少人数にもかかわらず、ネパールの学生たちの丁寧で気配りのきいたホスティングは、帰り際持ち帰りきれないほど頂いた歓迎のギフトや実用的な工夫が凝らされたグッズ、他国の学生への気遣い溢れる豊富な毎食のブッフェのメニューなどから終始垣間見ることができました。過密で多忙なスケジュールでも、休憩時や移動時に一度ネパールの伝統楽器(madal という持ち運べる太鼓のようなもの)を鳴らすものがあれば、どこかれ構わず皆で踊り始めるネパール人の陽気な性格にはこっちまでつられて踊り初めてしまうほどでした。

東アジアと東南アジアの国々から集まった学生さん達と交流する中で、最初から人懐っこく打ち解けやすい人柄の国もいれば、初めはぎこちなかったり壁があるものの勇気をもって話すと意外に話しやすく冗談が好きで友達思いな人柄の国だったり、様々な各国のユニークな国民性を発見できたのは興味深かったです。

また、カルチャーブースでは各国の特色を生かした伝統的な装飾品や工芸品の展示を観たり、身近で美味しいお菓子の試食などができ、故郷を離れてヨーロッパで長年生活するものとしては非常にアジアが恋しくそして懐かしく思えるイベントでした。

アカデミック発表会では、他の国の学生さん達の完成度の高いプレゼンに、一人でも堂々とポスター発表をする学生さん、中には人形を使用したパフォーマンスを加えた発表など感心するものばかりで非常に刺激を受けると共に、次回のカンファレンスではもっと自分たちの特色を生かして自信を持って発表をしようというモチベーションにも繋がりました。

山岳医療がテーマということで、実際に厳しいヒマラヤの現場で働かれているネパールのお医者さんの話を拝聴した際は、お医者さんという仕事は自分の興味と仕事を結びつけることができ、結びつけ次第で働き方は本当に無限大だと知り、新しい興味へ視野を広げられるきっかけを得ることができました。

総じてこの5日間では、普段大学の勉強だけでは得られない貴重で代え難い体験をすることができたので、このようなカンファレンスや国際交流の場には学生の時間が許す限り積極的に参加していきたいです。

最後に AMSA-Japan の EAMSC 2023 の参加に関わった全ての方々、アカデミックの論文作成及びプレゼン作成に携わった皆さん、一緒にネパールまで渡ってくれた3人、本当にありがとうございました！

森 そのほ デブレツェン大学医学部 4 年

今回の EAMSC 2023 ネパールは自分にとって初めての国際会議の参加で、最初はどんな準備をしていったらいいのかわからず不安でしたが、実際に国際会議が始まってしまふとあつというまで、気付けば空港へ向かうタクシーの中でした。私が今回一番印象に残ったことは、各国の学生の情熱とモチベーションです。今回出会った学生たちはみんな何をするにも楽しそうに取り組み、他人とかかわることに積極的で日本人がいかに消極的なのかを気付かされました。特にアカデミックデー(paper and poster competition)では各国の学生が意気揚々と発表しているのを見て、プレゼン力と発信力の高さに感心すると同時に医学をもっと学びたいという学習意欲も高まりました。5日間と短い期間でしたが、毎日盛りだくさんで、AMSAの「つながり」への強い思いを感じ、様々なバックグラウンドからの人と関わる大事さを学びました。カレーも飽きるほど食べて満足です。また機会あれば是非参加したいです！ありがとうございました！

【著者、編集】

櫛部 美夕香 デブレツェン大学医学部 5 年
Miyuka Kushibe University of Debrecen 5th year

【発行】

2023 年 2 月 18 日

